



第45号

梅苑会報



福島県立福島高等学校

別れ 〜 出会い 〜 希望



別 れはいつも寂しさをもたらす。ましてや、愛着が強ければなおさらである。しかし、別れのあとは新たな出会いが待っている。新たな出会いは人を一回りも二回りも成長させてくれる。

三 年前の東日本大震災で大きな被害を受けた本校第3・4棟が取り壊され、新校舎建設に向けて動き出したことは、昨年のこの紙面で取り上げた。人気がないコンクリートの建物が重機によって黙々と取り壊され、徐々にその姿を失っていく光景は、何ともいえない寂しさを感じるものである。しかし、更地になった広い敷地を目にしたとき、新たな命の誕生と希望を感じた。

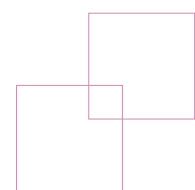
当 初、新校舎の完成は平成26年3月の予定であったが、杭打ち作業の難航



もあり、現段階で8月完成予定となっている。急ピッチで工事が進められており、現在は三階から四階部分の作業にかかっている。日に日に新校舎が形となって現れてくる様子を見るのは、春を待ち望む心境と同じである。

新校舎完成後は、26年度後半に第2棟の、27年度前半には第1棟の耐震工事、さらに校舎・敷地内の除染と、工事や作業が行われることになっている。

一方、後述のように太宰府天満宮より梅の苗木が恵与され、新校舎建設とともに新しい福島高校が動き出そうとしている。学ぶ校舎・環境は変わっても、福島高校であることは今も昔も変わらず、変わるはずもないことである。





同窓会会長
川崎眞二
(高校第11回卒)

学問の神様からの贈り物

「旧年寒苦梅 得雨一時開」。
文字通り水霜凌げる梅花をシンボルとする本校にこの度、学園の神様・菅原道真を祭る太宰府天満宮より五本の紅・白梅の苗木を賜ることになり、二月十九日本校の前庭に移植されました。大震災から三年間、逆境に耐え、仮設の校舎で勉学に励み、今日を迎えた卒業生・在校生のこれからの人生の心の支えとなるよう贈られたものです。このご厚意に対し心から感謝を申し上げます。

昨年二月二十八日、同窓会入会式において、本会は新たに三百九名の新会員を迎え、同窓生は総数三万一千五百名を超えました。

五月二十四日、第十一回関東梅苑会総会「設立二十周年記念総会」が東京グリーンパレスにて盛大に開催されました。詩人

の長田弘「高校十回卒」さんの記念講演、また恩師の星一彰、浅野嘉尚、滝本通彦の各先生が招待され、往時の本校性の姿を懐かしく語られました。この席上、関東梅苑会設立に尽力された方々にはそれぞれ感謝状が贈られました。中学三十九回卒の先輩から高校第六十四回卒まで幅広い参加を得て、本会の太い絆を感じるとともに大いなる発展を確信いたしました。

五月二十六日、第十三回梅苑会ゴルフ大会が好天のもと行われました。二十四組の参加があり、和気藹々の楽しい一日となりました。個人戦と学年別の団体戦が聞われました。次年度からは職域別、部活動別の団体参加も期待しています。二十四回卒の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

九月十二日、ハーネル仙台にてみやぎ梅苑会が開催されました。今年は東北電力関連企業からの参加があり、仙台在住の若

い会員にも声をかけ輪を広げ活性化を図りたいとのこと、心強く感じました。

十一月二十九日、同窓会総会が福島グリーンパレスで開催され、約三百名の会員が集いました。詩人の和合亮一（高校三十九回卒）さんが講演され、福島復興に向けた強い思いを語られました。待望の応援団復活の披露の場では見事な演技が再現され、団長の指揮により「校歌」と「あかぎの香り（捷の曲）」を声高らかに歌い、大懇親会では年代を超える熱い交流が見られ、時の経つのを忘れる程の盛会でした。高校二十一会卒の皆様の応援を戴き、職域からは東邦銀行の皆様にも多数参加していただきました。

同窓生による音楽活動が地元で開催され、多くの同窓会が応援しました。本県合唱王国の草分けOB合唱団コール・マルシユナー福島演奏会が福島音楽堂で開催されました。また共学



福高同窓会総会

一期生（高校五十八回卒）の音楽家によるウィンターコンサートが福島県文化センターにて開催されました。

一年間の同窓会活動を振り返

り、更なる同窓会の絆を深めるため、今後とも同窓会の皆様のご支援、ご協力を賜りますように心からお願い申し上げます。いさつといたします。

平成25年度「福高同窓会総会」が11月29日、午後六時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。総会に先立って和合亮一氏（高校第39回卒）による、「私にとっての梅高精神」をふるさとをあきらめない」と題した記念講演がありました。和合氏は現在、福島県立保原高等学校に教諭として勤務されている傍ら、詩人としても活躍されています。詩集の発表の他、東日本大震災以降、「Twitter」にて「詩の礫」と題した連作を発表され続ける等、精力的に活動が続けられています。講演では、詩の朗読を交えながら、未だ震災と原発事故の傷に苦しむ福島への想いをお話し頂きました。記念講演に引き続き、昨年度より復活した応援団・チアリーダー・管弦楽部による応援の披露があり、会場を大いに盛り上げました。

総会では、太宰府天満宮からの梅の植樹などの明るい話題も出され、会は盛況のうちに幕を閉じました。

平成26年度 一般会計予算書 25年9月1日～26年8月31日

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	2,358,674	
(2)入会金	945,000	卒業生 (315名×3,000円)
(3)年会費	3,315,000	卒業生 (315×1,000円) 会員 (約1,500名×2,000円)
(4)雑収入	100,000	預金利子等、寄付金等
(5)利息	0	
合 計	6,718,674	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
1.事業費	3,530,000	
(1)総会費	550,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,600,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	
2.運営費	740,000	
(1)会議費	200,000	役員会、幹事会
(2)事務諸費	10,000	振り込み手数料他
(3)交際費	150,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、職員饗別、その他
(4)慶弔費	100,000	
(5)通信費	80,000	切手、葉書代
(6)旅 費	150,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費
(7)雑 費	50,000	
3.会員名簿管理費	840,000	平成25年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,608,674	
合 計	6,718,674	

項目間の流用をお認め願います。

平成26年度母校後援会費予算書 25年9月1日～26年8月31日

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	10,163,586	
(2)会費	1,760,000	卒業生(315名×1,000円)、会員(約900名)
(4)雑収入	2,042	利子等
合 計	11,925,628	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	母校への助成
(2)部活動助成	300,000	全国大会出場の部への激励金
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	
(4)予備費	9,925,628	
合 計	11,925,628	

項目間の流用をお認め願います。

平成26年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書（特別会計）

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,697,614	
(2)積立金	500,000	母校後援会会計より
(3)雑収入	183	利子等
合 計	2,197,797	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	0	
(2)次期繰越金	2,197,797	
合 計	2,197,797	

平成25年度県立福島高校同窓会義援金会計報告

1.収入の部

(単位：円)

日付	氏名	義援金額	摘要
H23.7.15	昭和52年度2年9組同級会	30,000	
H23.7.22	関東梅苑会	1,400,000	
H23.7.28	歯科梅門会	200,000	
H23.7.28	市役所梅友会	100,000	
H23.8.20	利息	22	
H24.10.18	関東梅苑会	100,000	
H24.2.18	利息	145	
H24.8.18	利息	146	
H25.2.16	利息	146	
H25.6.4	高橋直樹 様 (宮城県)	20,000	
H25.8.17	利息	146	
合 計		1,850,605	

平成25年度 一般会計決算書 24年9月1日～25年8月31日

収入決算額 7,399,702円
支出決算額 5,041,028円
次年度へ繰越額 2,358,674円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	2,832,120	2,832,120	
(2)入会金	945,000	927,000	卒業生 (309名×3,000円)
(3)年会費	3,315,000	3,555,030	卒業生(309名×1,000円) 会員(1,226名)
(4)雑収入	480	85,552	預金利子、寄付金等、旅費返金
(5)繰入金	0	0	
合 計	7,092,600	7,399,702	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,880,000	3,296,349	
(1)総会費	500,000	528,030	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	3,000,000	2,500,619	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	267,700	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	850,000	457,179	
(1)会議費	250,000	181,784	H24年第2回、H25年第1回役員会
(2)事務諸費	50,000	2,100	振り込み手数料
(3)交際費	150,000	100,000	関東・みやぎ梅苑会参加費
(4)慶弔費	100,000	0	
(5)通信費	100,000	46,135	往復葉書、切手
(6)旅 費	150,000	127,160	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	0	
3.梅苑会館運営費	500,000	500,000	
維持管理費	500,000	500,000	特別会計へ
4.会員名簿管理費	840,000	787,500	平成24年度分会員名簿管理費
5.予備費	1,022,600	0	
合 計	7,092,600	5,041,028	

平成25年度 母校後援会費決算書 24年9月1日～25年8月31日

収入決算額 10,933,586円
支出決算額 770,000円
次年度へ繰越額 10,163,586円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	9,171,544	9,171,544	
(2)会費	1,315,000	1,760,000	卒業生 (309名×1,000円) 会員 (829名)
(3)雑収入	1,256	2,042	預金利子、CD販売金
合 計	10,487,800	10,933,586	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	420,000	校歌応援歌CDプレス代
(2)部活動助成	200,000	350,000	
(3)予備費	9,087,800	0	
合 計	10,487,800	770,000	

平成25年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書（特別会計）

収入決算額 1,697,614円
支出決算額 0円
次年度へ繰越額 1,697,614円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)繰り越し	1,197,431	1,197,431	
(2)積み立て	500,000	500,000	25年度分
(3)雑収入	169	183	預金利息
合 計	1,697,600	1,697,614	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)修繕費	0	0	梅苑会館修繕費
合 計	0	0	

卒業生に聞く!

大学スポーツ界にはばたくホープたち 梅校の代表として誇りを胸に

関東梅苑会だより



強いワセダに憧れ「打倒帝京」誓う 早稲田大学基幹理工学部2年 滝沢 祐樹さん(高校64回卒)

ラグビーを始めたのは小学5年生。附属小中から福高、早大と同じ経歴を歩む永山逸郎さんに誘われたことがきっかけだ。福高ラグビー部では永山さんが主将、滝沢さんは副将を務めた。U-17(17歳以下)の東北代表をはじめ、高校2年、3年では国体予選の福島県代表に選ばれた。全国大会への出場は果た



せなかったが、「福高で3年間ラグビーを続けることができて幸せだった。梅苑祭や体育祭での仲間との盛り上がりは今も良

い思い出」と振り返る。しかし、3年生に進級直前の平成23年3月、東日本大震災が発生し、校舎の3分の2が被災。「校内行事が中止となり、部活動も制限されたが、ラグビーがしたくて隠れて練習したこともあった」そうだった。

大学の進路は基幹理工学部を選んだ。「飛行機が好きで航空関係の設計に興味があった」そんな滝沢さんに大学でラグビーを続けるよう強くすすめてくれたのが、福高から早大ラグビー部に進んだ先輩たち。一人

が3年生の時、福高に赴任した松井暢彦先生(高52回)、そして現在金石シーウェイブスでプレーする菅野朋幸さん(高54回)である。

「見て楽しく、強い。ワセダラグビーに対する少年の憧れは、現実になった。

平成二十六年 関東梅苑祭・合同同期会

第42回 関東梅苑会ゴルフ大会

日にち：平成26年4月4日(金)
場 所：日高カントリークラブ
連絡先：丸山秀夫さん(高9回)
TEL.0484-76-4120
お気軽にご参加ください。

会員を大募集中!
関東梅苑会ゴルフ愛好会

- 日時：5月30日(金)
【受付】18時～ 【開宴】18時半～
- 会場：東京グリーンパレス
・千代田区二番町2 TEL.03-5210-4600
・麹町駅徒歩1分、半蔵門駅徒歩5分 ほか

スペシャルゲスト

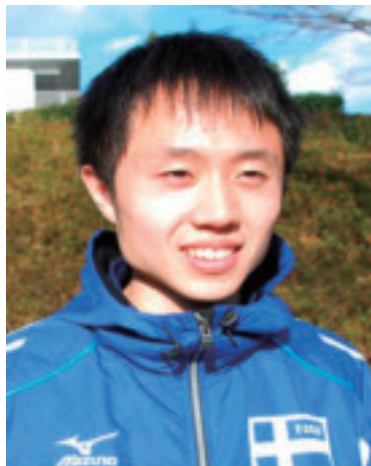
「あまちゃん」の音楽プロデューサー・大友良英さん(高30回)
*詳細は同封のチラシ、ホームページをご覧ください。



最後の箱根駅伝に雪辱期す

東海大学体育学部3年

吉川 修司さん(高校63回卒)



代表として出場。だが2年、3年はインターハイなど全国大会出場は叶わなかった。

保健体育教師を志望する吉川さんが東海大学への進学を決めたのは、なにより教育課程が充実していることが理由だった。もちろん

佐藤悠基、村澤明伸両選手(いずれも現日清食品グループ)という、日本のエースランナーを輩出した東海大学への憧れもあった。

1年生で箱根に出場。8区を走ったが個人20位、総合12位に終わる。2年生の箱根は予選会で出場を逃し、「走路員」として沿道で大会を支えた。

4年生になる吉川さんは、自

身3度目の箱根出場をかけて再び予選会から挑む。「チームの目標はあるが、個人としてもよい結果を出したい。それがチームの成績につながると思っています」

朝6時からランニング中心の毎日。「走ることをきついと思っただけではない。むしろ故障で走れない時の方がつらいんです」。だからこそ、ふだんから試合本番にピークをもっていく体調を意識した練習を心がける。

吉川さんは今年、教育実習で福高に赴任する予定。「1、2年の陸上部顧問だった三浦武彦先生(現福島明成高)には、今年の箱根でも励ましを頂くなどいつも感謝しています。自分が教師を目指すのも、三浦先生たち福高の先生方が理想像だから。今年一年、目標を持って努力していきます。そんな姿勢の大切さを教えることができる教師になれたらいいですね」

新春のスポーツイベントでおなじみの箱根駅伝。毎年、福島県出身のランナーたちの活躍が楽しみだが、その一人が東海大学3年の吉川修司さん(平野中出身)だ。今年は復路の最終区間10区のアンカーを任されたものの、区間21位、チームの総合順位も13位で、目標だった3年ぶりのシード権(10位以内)を逃す残念な結果となった。

「1万mの記録で28分台を持つのは自分も含めて3人だけ。チームの順位をひとつでも上げる役割だったのに、最後まで思うような走りができなかった」と悔しさをにじませる。

中学はバスケット部。福高陸上部では1年時に駅伝の東北大会のほか、国体3千m少年Bの



column

音楽で福島支援を

昨年11月、同窓会事務局宛に佐藤鐵夫氏(第9回卒、東京在住)からCDが届けられました。タイトルは「東日本大震災歌曲シリーズ」その1。佐藤氏は、東日本大震災や原発事故で被災された方々を精神的に支援したい、大震災から得た教訓を後世に伝え今後の防災・減災に役立ててほしいという思いから、30篇に及ぶ歌詞を創作されました。



東日本大震災歌曲シリーズその1



福島復興応援歌 福島音頭
定価: 1,500 円 (税込)



ヒマワリの歌
定価: 1,000 円 (税込)

この歌詞に菊地常雄氏(福島市在住の作曲家)の作曲、関根誠氏の編曲・音源化で完成したのがこのCDです。ただ、編曲・音源化が完了したのは30篇中7篇のみで、まだ23篇の音源化が未完了となっています。ボランティアで音源化を引き受けていただけた方がおられましたら、同窓会事務局までご連絡いただければ幸いです。また、菊地氏が、本県の復興を音楽で支援したいという思いから、福島復興応援歌として「福島音頭」を作詞・作曲された際、佐藤氏も補作詞として協力し、CDを製作されました。

みやぎ梅苑会だより

広げよう！親睦と交流の輪を みやぎ梅苑会総会・懇親会開催

平成25年度みやぎ梅苑会総会が、9月12日仙台市青葉区のハーネル仙台にて在仙会員約50名出席のもと開催された。総会は羽田事務局長（高9回）の司会のもと、物故会員に

黙祷を捧げた後、歌川和夫会長（高17回）が開会を宣言し議長席に着いた。

議案として①平成24年度事業報告・会計報告及び監査報告、②平成25年度事業計画案・予算案、③任期満了に伴う役員改選の3議案が審議され、何れも満場一致で承認された。

新会長に鈴木征夫氏（高12回）、新副会長に本間哲夫氏（高17回）が新たに選任され、留任の役員を含め新体制を発表し、鈴木新会長よりご挨拶がありました。

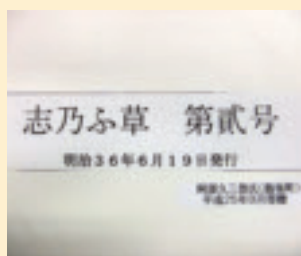
恒例の懇親会は母校より本間稔校長、同窓会

は母校より本間稔校長、同窓会

本部より川崎眞二会長・今関達也事務局長・丹治崇事務局次長、後援会関根英樹会長、父母の会阿久津順二会長・黒森洋一副会長、関東梅苑会より二階堂晋一会長・佐々木政彦副会長を来賓にお迎えし、今回事務局員に選任された菅野剛広氏（高34回）の司会で開始された。

挨拶に立たれた川崎眞二会長から「福島県の状況や同窓会の活動」について、本間稔校長からは「母校の除染・新校舎工事状況・生徒の活発な文化体育活動」についてご挨拶があり、各来賓の方々からのご挨拶や出席者の方々のショートスピーチ等を交え、同じ学舎を巣立った同窓生が互いにテーブル間を大きく移動しながら、世代・職域を超え和気藹々と賑やかに交流が行われた。

合唱部OBの駒場悟（高32回）氏の指揮により出席者全員で校歌を高らかに歌い上げ盛会裡に終了した。



column

しのぶ草(志乃ふ草)寄贈

昨年（平成25年）4月、福島市飯坂町の阿部様から「蔵を整理していたところ、大量の冊子が見つかり、その中に福島高校の『志乃ふ草』も何冊が含まれているので、整理して学校へお持ちします」と連絡をいただきました。その後、8月に阿部様からこの『志乃ふ草』を寄贈いただきました。寄贈いただいたのは、2号（明36）～6号（明38）・8号（明39）～15号（大2）・22号（大9）・24号（大11）の15冊で、桐の箱に保管されていたため保存状態も大変良く、貴重な資料として同窓会で大切に保管していきたいと思えます。寄贈いただいた阿部様には深く感謝申し上げます。

なお、1号（明36）・7号（明39）・39号（昭12）・43号（昭16）について引き続き探しておりますので、所蔵等の情報をお持ちの方がおられましたら、同窓会事務局まで連絡をお願いいたします。

一一一年の時と一四〇〇kmの距離を超えた「平成の飛梅」プロジェクト

梅花の如く、時代の先導たれ

高校三十三回卒代表幹事 篠木雄司^{しのぎ ゆうじ}



菅原道真公（九〇三年没）の歌に詠まれ、一晩で京都から太宰府まで約六〇〇kmの距離を飛んだという伝説の飛梅。太宰府天満宮のゆかりの梅を卒業生と福島高校の後輩たちのために贈呈しようという、「平成の飛梅」プロジェクトが平成25年5月に始動した。

●プロジェクトの経緯と背景

きっかけは高校33回昭56年卒の五年毎に行われる同級会。それまで全く集まったことの無かった同級生が五年前、卒業から約三十年ぶりに集まり「幻の応援歌講習」「三十年ぶりに復活・伝説の授業」を行った。五年後の再会を約し全国に帰って行った同級生。その五年の間に、東日本大震災・原発事故が発生、福島を離れている同級生が多い中、「故郷福島のために何かをしたい」との声が多く上がった。今春卒業の66回卒業生は、中学の卒業式当日に震災に見舞われ原発事故により、14μSVの高放射線量の中の全員マスク姿での合格発表、体育館での80人学級、プレハブ仮設校舎での授

東風吹かば

匂ひおこせよ

梅の花

あるじなしとて

春な忘れそ

業、梅苑祭の中止等困難な高校生活を強いられた。工事の遅れもあり新校舎で学ぶことも出来ない後輩たちに「福島高校で学んだ誇りを心に刻んで欲しい」との想いを形にして伝えるのに

福島の校章でもある梅・それも日本で一番有名で学問の神様の太宰府天満宮の飛梅を贈れないものかと始まったプロジェクト。伝手をたどってお願いしようとしたが「ご神木を譲り受けることは到底無理」と断られ、話が中断。六月に諦めきれず、福島の子どもの達であったかい心の詰まった詩集「こころの幻燈会」を携え単身アポなしで太宰府天満宮へ。「前例がない話で難しい。ただ太宰府天満宮では宮司が毎日震災復興をお祈りしている。地元の神社関係者から正式ルートで依頼があれば可能性はゼロではないかもしれない」とのアドバイスをいただき早速、福高OBの福島稲荷神社丹治宮司にお願いする。運命的な偶然で、太宰府天満宮の西高辻宮司と丹治宮司は慶応大学の学生時代からの知人で、異例中の異例であったが「太宰府天満宮ゆかりの梅の恵与」が実現する。

●後輩たちに伝えたい事

梅は寒さに耐え忍び、雪中に凜として、春に先駆け、どの花

よりも最初に咲く。次代を担う若人に福島高校で学んだ誇りと

感慨を忘れず校歌に「花咲きみのりて、世のため立たむ」とある様に梅花の如く、時代の先導たれとの想いを込め、同窓会の先輩から後輩に贈る。

なお五本の内の一本には名前が無く、福島高校がその梅の名付け親になって欲しいとの計らいで現在梅の名前を学生と検討中である。



P.S.「平成の飛梅」プロジェクトの名前は太宰府に行く前からの名前なので「飛梅」と使っている。

column

図書カードをご寄贈いただきました

福高21回卒有志会及び元本校教諭の故大越勝忠先生のご令室である大越武子様から、2万円分の図書カードをご寄贈いただきましたので、ご報告したいと思います。

平成26年1月2日、「福高21回卒有志会」が開催されました。当会は恩師の先生方をお招きして、毎年1月2日に開催されていましたが、昨年、恩師のお一人である大越勝忠先生がご逝去され、会にご出席いただくことができなくなっていました。大越先生のご令室である大越武子様は、毎年この会への出席を楽しみにしておられた先生が出席できなくなったことを憂い、参加者20名お一人お一人分の図書カードをご準備され、1月2日の会で披露されました。

その後、この図書カードを受け取った参加者のみなさんと話し合われ、「母校である福島高校に寄贈してはどうか、大越先生にも喜んでいただけたらいい」ということになり、この度、当会から寄贈される運びとなりました。

1月7日には当会を代表し、テレビユー福島 常務取締役、経営企画室長である佐藤信雄様が来校され、図書カードをご寄贈いただきました。

寄贈いただいた図書カードについては、今後、本校図書館における図書購入費として活用させていただきます。この場を借りまして、感謝申し上げます。なお、福高21回卒有志会からは、以前、新渡戸稲造全集をご寄贈をいただいておりますことを付記させていただきます。



福島高等学校長
本間 稔

新たなステージを 目指して

同窓会員の皆さまには、ご健勝にてご活躍のことと存じます。また、日頃より母校のためにご支援とご協力をいただいておりますことに対し心より御礼申し上げます。

震災下での入学式の延期や仮設校舎での授業など最も困難な状況の下、本校で学んだ生徒がこのたび六十六回卒業生として本校同窓生の仲間入りを果たすことができましたことは、職員一同、この三年間に思いをはせると感激もひとしおであります。当初三月末の竣工予定であった校舎の建設に関しては、基礎杭を打つ段階で硬い転石層に阻まれたため約四ヶ月遅れております。現在、八月二十日の竣工を目指して急ピッチで建設を進めてはいるものの、仮設校舎での学校生活が続いております。しかし、生徒は不自由さをものともせず勉学に部活動にと頑張っています。

学習においては、本県N.O.1の揺るぎない進学実績を持つ学校とするため、他県の進学校

に伍する学校とするため、生徒のモチベーション高揚を図るべく様々な事業に取り組んでおります。具体的には、主に理系への進学を目指す生徒には、文部科学省のスパークサイエンスハイスクール（SSH）事業、文系への進学を目指す生徒には、本校独自の事業「リベラル・ゼミ」での大学教授等の講義が挙げられます。これらの取り組みを通して大学進学の学習や将来の進路選択を踏まえた先の見える学習を行い、本校の校是でもある自主自律、自学自習の実践が図られるよう取り組んでおります。今年度は東京大学への進学希望者が大幅に増加しており、我々、教職員は次のステップとしていかに生徒の志望を叶えたための学力を確実に身につけさせるかを、大きな課題だと考えております。

一方、部活動においては、アーチェリー部、テニス部、陸上部が北部九州で開催された全国インターハイに出場しました。特に400mリレーの出場は本校

初の快挙でした。また、野球部の夏の大会ベスト16、秋季地区大会優勝、県大会準々決勝出場などもあり、大いなる盛り上がりを見せてくれました。文化系の部活動では、囲碁部、将棋部、梅章委員会、チアリーダー部が長崎での全国高校総合文化祭に出場し、中でも将棋部は団体五位に輝きました。

私たち教職員は、今育てている福高生を、福島の復興の担い手として、福島の文化の発展の担い手として、そして福島高校の伝統の担い手として育て上げていかなければならないという重き使命を日々感じ、取り組んでおります。また、生徒達はそれに十分に伝えてくれております。同窓会におかれましては、今後とも母校発展のためこれまで以上のご支援をいただければ幸いです。

部活動成績

陸上部
●東北高等学校選手権大会 男子200m第2位(インターハイ出場)
●福島県高等学校体育大会 男子4×100mリレー 第2位(インターハイ出場)
●東北高等学校新人陸上競技選手権大会 男子200m第1位
●ジュニアオリンピックカップ第7回日本ユース陸上競技選手権大会 男子走幅跳第4位

バスケットボール部
●福島県高等学校体育大会 男子第2位(東北大会出場)

テニス部
●福島県高等学校体育大会 女子シングルス第2位(インターハイ出場)
●福島県高等学校新人体育大会 女子シングルス第1位 女子学校対抗第2位
●全日本ジュニアテニス選手権大会U16東北大会 女子シングルス第1位 ダブルス第1位(全国大会出場)
●国民体育大会 少年女子 出場
●東北ダブルステニス選手権大会 ジュニアの部第1位
●福島県春季選抜ジュニアシングルス選手権大会U18 第2位(東北大会出場)

水泳部
●福島県総合体育大会 男子50m平泳ぎ第2位

アーチェリー部
●福島県高等学校体育大会 男子個人第2位 女子個人第3位(インターハイ出場)
●福島県高等学校新人体育大会 男子団体第2位 女子団体第2位

囲碁部
●全国高等学校囲碁選手権大会福島県大会 男子団体戦優勝 男子個人戦優勝
将棋部
●全国高等学校将棋選手権大会福島県大会 団体戦優勝
●全国高等学校将棋新人大会 準優勝
●全国高等学校総合文化祭 男子団体第5位

SS部
●日本生物学オリンピック2013 銀賞
●一般社団法人プラズマ・核融合学会 優秀発表賞

梅章委員会
●全国高等学校総合文化祭(長崎県文)新聞専門部門 全国高校新聞年間紙面審査 優良賞
●全国高校新聞年間紙面審査 入賞(つくば総文参加予定)

書道部
●福島民報創刊120周年記念席書大会 最高賞
●たなばた展 優秀学校賞
●福島県高等学校書道展 条幅の部優秀賞 半紙の部優秀賞

梅苑祭

震災後、初の一般公開となった福島高校梅苑祭が平成25年8月31日(土)、9月1日(日)に行われました。依然として使用できる教室が少なく、参加者の安全確保の観点から、チケットによる入場制限をかけての実施となりました。

公開文化祭の経験のある生徒がいらない中、生徒達はクラス企画、文化系部活動による発表、ウメ横、復興企画、有志によるステージ発表など、その準備に多く

の時間と労力を費やし、二日間の公開を見事に成功させました。特に、三年生クラス企画では劇の上演が並び、力のこもった演技で観衆を魅せていました。また、後夜祭では本校同窓生でバンド「BOWMY」のドラマ、高橋まこと氏がサプライズゲストとして出演するなど、大いに盛り上がりました。



進学展望

進路希望の動向 〈合格の花咲かせ、世の為たれ！〉

平成二十六年三月の卒業生は、東日本大震災直後の入学生である。入学当初は二クラス一緒に、第二体育館、梅苑会館、視聴覚室での学習を余儀なくされた。その後も、夏休み明けから二年生までは仮設校舎で生活を送るなど決して恵まれた環境であったとは言えない。そのような困難な中でも、例年にも増して力を蓄え、それぞれの進路実現に向け挑んだ。

平成二十六年年度のセンター試験は、十八歳人口の減少もあり、志願者数、受験者数ともに減少した。科目別平均点では、昨年、難化した数学Ⅰ・Aで大きく上昇し、国語は過去最低だった昨年よりもさらに低い平均点になりそう。昨年、科目間の均衡が取れていた理科では上昇した化学と大きくダウンした地学との平均点差は二十点近くなり、生物も難化したことから選択者の多い文系生にとっては厳しい結果となった。七科目型の平均点は文理で明暗が別れ、文系は理系よりも三十点以上低くなる見込みである。昨年比で全国では、文系で四点、理系で十六点程度上昇する見込みであり、本校でも同様の傾向であった。昨年、どちらも平均点が下がっており、過去の平均点を見ても

決して高い平均点とは言えず、受験生にとっては、昨年同様難しかったという印象が強かったのではないかな。

このような結果を受けての国公立大の志願動向だが、旧帝大を中心とした難関大学や準難関・地域拠点大学においても、全体的には極端な安全志向は感じられないものの、来年度から数学科と理科において、新教育課程に基づく入試となることや、先にあげた文系で得点が伸びなかったことも影響し、より確実な大学に志望校を変更するケースも目立つたのではないかな。

学部系統別ではこれまでの「文低理高」「実学志向」の傾向の中、工学部では「機械・航空」「建築」といった分野を中心に女子志望者も目立ってきている。また、本校においても医学系、薬学系は例年どおり、人気が高い。校歌に歌われる「花咲き実りて世の為立たん」の一節に示された、福高の精神を実現する第歩として、全国津々浦々に梅花を咲かせてもらいたい。そのために、国公立では生徒たちが後期日程まで粘り強く受験と向き合い、合格を勝ち取ることができるよう支援していきたい。

入試出願状況 (現役の延べ数・推薦、AOは含まない) 2月7日現在

項	大学名	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年
国公立大	北海道大	13	12	32	9
	岩手大	3	10	8	5
	東北大	69	67	69	87
	山形大	20	17	15	20
	福島大	72	48	66	61
	茨城大	13	5	10	9
	筑波大	22	32	15	31
	宇都宮大	10	14	2	6
	埼玉大	18	20	24	26
	千葉大	36	36	34	31
	東京大	16	22	5	12
	東京外語大	5	2	6	9
	東京工業大	4	4	6	11
	一橋大	7	8	2	8
	横浜国立大	9	8	13	22
	新潟大	32	24	28	21
	京大	8	10	3	5
	その他	53	68	63	60
私立大	県立医科大	56	48	66	42
	県立会津大	0	3	1	0
	高崎経済大	8	3	2	2
	その他	19	31	36	32
	東北学院大	12	13	20	4
	青山学院大	17	31	34	44
	慶応義塾大	25	20	22	28
	上智大	5	5	7	6
	中央大	42	56	61	52
	東京理科大	21	20	31	32
	日本大	18	24	20	14
	法政大	39	60	48	42
	明治大	74	93	118	90
	立教大	37	61	37	55
	早稲田大	64	67	79	77
	その他	253	262	282	213
国立大学合計		410	407	401	433
公立大学合計		83	85	105	76
私立大学合計		607	712	759	657
総計		1,100	1,204	1,265	1,166

大学合格者数 (過年度卒を含む)

項			平成 25年	平成 24年	平成 23年	平成 22年
合格者数	国公立大	北海道大	9	5	4	3
		岩手大	3	8	0	3
		東北大	26	25	41	33
		山形大	10	9	11	10
		福島大	19	24	33	35
		茨城大	3	2	1	2
		筑波大	7	6	10	7
		宇都宮大	7	2	3	4
		埼玉大	6	12	11	11
		千葉大	14	15	13	5
		東京大	3	0	6	4
		東京外語大	0	2	1	0
		東京工業大	2	1	6	3
		一橋大	3	1	2	2
		横浜国立大	4	6	7	4
		新潟大	9	14	8	10
		京大	1	2	5	1
		その他	21	17	16	9
		県立医科大	17	27	15	16
	高崎経済大	1	1	0	2	
	その他	16	15	9	12	
	小計	181	194	202	194	
	私立大	慶応大	10	6	13	10
		早稲田大	28	22	44	41
		中央大	27	38	34	33
		明治大	48	55	44	37
		法政大	19	18	19	28
		立教大	40	19	22	10
		日本大	17	8	13	13
		東北学院大	5	20	7	10
		同志社大	2	2	6	2
		その他	251	235	134	214
	小計	447	423	336	398	
就職	準大学	1	1	2	3	
	短大	1	2	3	5	
	各種学校	0	0	1	3	
	合計	630	620	6	603	

寄贈図書紹介（平成25年1月～12月）

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者（敬称略）	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者（敬称略）
25.02.26	15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史	甚野尚志	甚野尚志 (福高28回卒)	25.06.28	原子力発電で本当に私たちが知りたい120の基礎知識	広瀬隆、等	角田勝重
25.02.26	詩と死	唐木順三	福高職員・須藤鑑	25.06.28	日本の地震地図	岡田義光	角田勝重
25.02.26	Macの知恵の美	牧野武文	福高職員・朽木隆	25.06.28	代理母問題を考える	辻村みよ子	角田勝重
25.02.26	松永真、デザインの話。+ ^①	松永真	福高職員・朽木隆	25.06.28	自然（じねん）を生きる	玄有宗久、等	角田勝重
25.02.26	東日本大震災写真集 あの日のふくしま 3冊	福島県	福島県	25.06.28	啓け！一被災者へ命の道をつなげー	岩田やすてる	福島県建設業協会
25.02.26	逆境を生き抜く 石巻地域公立高等学校の震災記録集	宮城県公立学校事務長会	石巻支部（石巻北高等学校内）	25.06.28	チェリノブイリ原発事故による環境への影響とその修復	フェリシア・フォーラム	山内正敏
25.02.26	これだけは知っておきたい食もの話	全国消費組合生活相談員協会	全国消費組合生活相談員協会	25.06.28	どがんねー古賀常次郎詳伝	佐保 圭	古賀常次郎
25.02.26	古事記ものがたり	中村 博	著者寄贈	25.09.30	低線量放射線を超えて	宇野賀津子	宇野賀津子
25.02.26	万葉集みじかものがたり	中村 博	著者寄贈	25.09.30	コロナへの恩返し	日経BPデジタル	ヤマト福祉財団
25.03.04	生命のセントラルドグマ 他99冊	武村政春	講談社	25.09.30	東大ing	東京大学新聞社	福高進路指導部
25.05.31	J-POPをつくる！	川本聡胤	フェリス学院大学	25.09.30	邂逅と研究の歩み	菅野耕毅	菅野弘毅 (福高8回卒)
25.05.31	「古典」は誰のもの	一戸渉 等編	金沢大学	25.09.30	ゲストは語る 記者が問う	日本記者クラブ	星浩 (福高26回卒)
25.05.31	いま福島で考える (FUKUSHIMA symposium)	後藤康夫 等編	後藤康夫 (福高21回卒)	25.10.31	デットエンド・スカイ	清野栄一	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	3・11からの挑戦	昌平賢	昌平賢	25.10.31	オール・トゥモロウズ・パーティーズ	清野栄一	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	東日本大震災記録集 絆	福島県学校保健会 養護教諭部会	福島県学校保健会 養護教諭部会	25.10.31	RAVE TRAVELLER 踊る旅人	清野栄一	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	放射線ってなあに？	科学技術振興機構	科学技術振興機構	25.10.31	レイヴカ	清野栄一、鶴見清	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	生命科学がひらく未来	田沼靖一 等著	東京理科大学	25.10.31	INTERVIEW	清野栄一	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	竹を吹く人々	泉武夫	東北大学大学院文学研究科	25.10.31	地の果てのダンス	清野栄一	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	男と女の文化史	東北大学	東北大学大学院文学研究科	25.10.31	ブラック・ダラー	清野栄一	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	男女共同参画による日本社会の経済・経営・地域活性化戦略	吉田浩編	東北大学経済学研究科	25.10.31	ブラウン・パニー	清野栄一	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	不動産登記法概論	山野目章夫	山野目章夫 (福高29回卒)	25.10.31	テクノフォビア	清野栄一	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	改革派詩人が見たフランス宗教戦争 他7冊	高橋薫	中央大学	25.10.31	崩壊ホームレス	アレクサンダー・マ スターズ著、清野訳	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	老いの才覚	曾野綾子	長場豊夫 (福高14回卒)	25.10.31	麻薬とは何か	清野栄一、等著	清野栄一 (高校37回卒)
25.05.31	歎異抄入門	本多顕彰	長場豊夫 (福高14回卒)	25.10.31	フェアウェイの風	いつも青春 (阿部明)	阿部明 (高校20回卒)
25.05.31	ホンモノノ文章力	樋口裕一	長場豊夫 (福高14回卒)	25.10.31	変形菌ずかん	川上新一	著者寄贈(SSH) より
25.05.31	ビジネスマンの父より息子への 30通の手紙	キグスルイ・オート	長場豊夫 (福高14回卒)	25.10.31	一瞬の風になれ 1ー3 他23冊	佐藤多佳子	梅苑祭「古本市」 売上金
25.05.31	平成維新	大前研一	長場豊夫 (福高14回卒)	25.11.30	理数教育がひらく未来	東京理科大学	東京理科大学
25.05.31	ネクスト・ソサイエティ	ドラッカー	長場豊夫 (福高14回卒)	25.11.30	東北地区大学生協職員の手記 東日本大震災	大学生協東北ブ ロック	大学生協 東北事業連合
25.05.31	鄙の論理	細川護熙	長場豊夫 (福高14回卒)	25.12.20	生きる力がわく「論語の授業」	江藤茂博・編	福高・国語科
25.05.31	日本人の生きがい	宮城吾弥	長場豊夫 (福高14回卒)	25.12.20	メイリオ	木戸多美子	著者寄贈
25.05.31	反常識講座	渡辺淳一	長場豊夫 (福高14回卒)				

(その他多数の寄贈圖書をいただきました)

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成25年度 同窓会役員

会長	川崎 真二	高11回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	小松 恭三	高14回
副会長	久米 允彦	高16回
副会長	渡邊 健寿	高17回
副会長	歌川 和夫	高17回
副会長	片平 憲子	高19回
常任理事	佐藤 紀男	高11回
常任理事	齋藤 登	高12回
常任理事	磯貝 健郎	高13回
常任理事	林 恭良	高14回
常任理事	永倉 禮司	高15回
常任理事	二階堂 晋一	高16回
常任理事	富田 建一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	山岸 清	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	本多 修二	高20回

監事	鈴木 芳喜	高19回
監事	松野 孝司	高20回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回
理事	上竹 豊	高14回
理事	岡崎 勇三郎	高15回
理事	今野 金顕	高15回
理事	池田 正昭	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	網代 智盟	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	尾形 克彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回

理事	菅野 日出喜	高23回
理事	加藤 典義	高23回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	高橋 雅行	高24回
理事	渋谷 修一	高24回
理事	渡辺 久	高25回
理事	後藤 忠久	高26回
理事	土屋 牧雄	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	八子 直樹	高31回
理事	大和田 利明	高31回
理事	篠木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回
理事	関根 英樹	高33回
理事	阿久津 順二	高37回

平成25年度 同窓会事務局員

田中 訓樹	高22回
佐藤 洋光	高23回
須藤 鑑	高26回
朽木 隆	高27回
大橋 良一	高27回
今関 達也	高28回
石田 正彦	高30回
国分 聡	高33回
西山 伸一	高35回
佐藤 富浩	高36回
丹治 崇	高36回
渡邊 兼綱	高36回
小林 寿宣	高38回
大河内 孝志	高38回
本多 信弥	高40回
田中 幹大	高46回
田中 成和	高48回
松井 暢彦	高53回

同窓会事務局（福島高校内）

〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392

みやぎ梅苑会事務局

〒981-0923 仙台市青葉区東勝山二丁目22-6
TEL.022-275-2887（落合 敏伸）

関東梅苑会事務局

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358（今野 金顕）
<http://www.kantobaienkaie.ne.jp/index.html>